

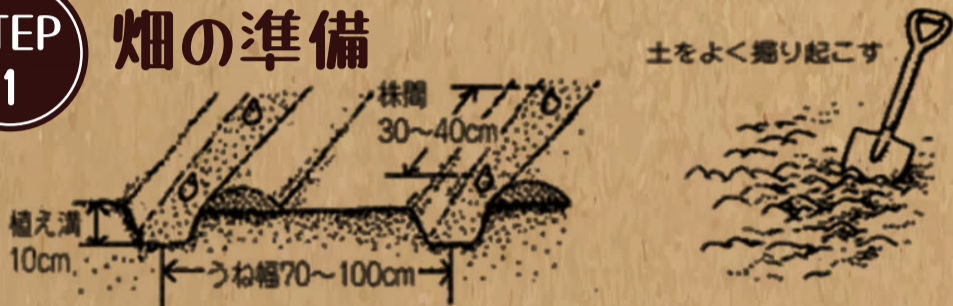
さといもの 植え方



植付時期 4月上旬～5月上旬

収穫時期 10月上旬～11月

STEP 1 畑の準備



* 土をよく耕し湿気を保つためにはじめは平うねとし、15cmの幅の溝を切ります。
元肥に1㎡あたり、堆肥3kg、鶏糞100g、化学肥料100gを施します。

STEP 2 タネイモの準備



* 種イモはふっくらとして芽が痛んでいないものを選ぶ。
大きさは40～60g位がよい。

STEP 3 植えつけ



* 元肥の間にタネイモを上向きに植えつける。
発芽温度は15cm以上必要です。
株間約30cm位で、4月上旬～4月下旬頃に植えます。

STEP 4 追肥と土寄せ



* 乾燥防止に敷わらも効果的です。

* 化成肥料を1㎡あたり50gを株間に施し、除草、中耕を兼ねて土寄せをします。
* 6月下旬～7月上旬に2回目の追肥と土寄せを行います。直射日光が根元にあたる時は、乾燥防止に土寄せを多く行います。
* 夏の乾燥時は灌水します。その後、子芋の芽が伸びてきたら、敷きわらを取り除いて土寄せをします。肥料をきかし夏まで葉を茂らせて根元が暗くなる位にするのがコツです。

STEP 5 収穫



* 10月下旬から、霜にあたる直前に掘り上げてください。イモを傷つけないように気を付けてください。

* 茎を切り大きめのスコップで掘り取る

STEP 6 貯蔵



* 排水のよい所に穴を掘り、雨水が入らないようにする。

* 収量が多いときは1週間陰干し後、親芋に子芋をつけたまま、地面に穴を掘って貯蔵するか、モミガラ入りの大型ポリバケツで12～13c以上で貯蔵します。



特徴

動脈硬化、高血圧を予防するといわれているカリウムやエネルギーの供給源となるデンプンが多く含まれております。またヌルヌルした成分は肝臓、消化器系の働きを助けます。

食べ方

煮物、塩ゆで、汁の実、田楽等

- 石川早生 子イモ用の極早生種
- ハツ橋 親イモ、子イモ両方を食べる
ズイキ(葉柄)も食べられる
- セレバス 親イモ、子イモ両方食べられる中晩生種
(赤芽) ズイキ(葉柄)も食べられる
- 土垂 子イモ用の中生種

